

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
1	4 その他	全体	<p>コロナ禍なので2020年度の評価値をどのように判断するかは難しいですが、全体的に2028年度の最終目標に順調に向かっているのかについての視点でも記述した方が良いのではないかと感じました。</p>	<p>各指標が目標値達成に向けてどうかについては、資料3に記載の評価点で表してはいますが、順調に向かっているかどうかについては、今回が本計画の進捗管理を行う最初の年度であることから、記述するには一定期間の推移を見た上で判断する必要があるものと考えております。なお、評価点が低いものについては原因追求と改善方法の検討が必要なものと考えております。</p>
2	4 その他	全体	<p>全体の評価に共通するかもしれないので改めて、別述します。「コロナ禍で数値等が減少」というのは、一定の事業全てに共通する文言であり、ただ、中には減少しなかったものもあるため、なぜ、これら事業は、コロナで減少となったのかを個別具体的に示すことが必要であると考えます。いかがでしょうか。（たとえば、近年の社会（環境）情勢のところに影響があったのであれば、少し新型コロナウイルス感染症の影響について触れてもいいと思いますが、それもありませんでした。）評価（案）を作成するにあたってのパンデミックの記述に対する事務局のご見解があれば、教えてください。</p>	<p>指標のうち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が見られたものについては、資料3において言及しています。主に影響が見られたものとしては、ごみの排出量やイベント参加者数などです。 ごみの排出量については、感染予防の観点から在宅時間が増加し、家庭系ごみの排出量が増加しています。一方で、感染予防の観点から休業等が増加し、事業系ごみの排出量は減少しています。 イベント参加者数については、感染予防の観点から対面でのイベント実施が困難になったことから、減少しています。</p>
3	2 追加	【重点戦略】 1 はぐくむ	<p>今回、環境学習がコロナ影響下でとても衰退している。ただ、外出も限られ、子供たちは、吹田市内の公園で遊ぶことは多くなっていた。例えば、学校の外での家庭学習等において、環境学習の要素を取り入れるなどの工夫はできたと思うが、先生も現場対応に忙しく、また、市民協働プログラムも働いていなかったと思います。 確かに、昨年度は異例の対応となった点、一定理解は示すが、資料1、及び、資料2のはぐくむ（1）進捗状況等のところ、その理由をもう少し詳しく書いていただく必要があると考えますが、いかがか？「コロナ影響下により、なぜ、減少とせざるを得なくなったのか。」という視点が必要ではないでしょうか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、感染予防の観点から対面でのイベント等の実施が困難になったことから、当該指標については減少したものと考えられます。</p>

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
4	1 修正	<p>【重点戦略】 2 まもる</p> <p>【分野別目標】4自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成</p>	<p>○ 生物多様性の保全が重要だと思う市民の割合の減少について、資料3を見ると前回調査36.6%→今回26.5%になっている。 (4年に1回の市政モニタリング調査)</p> <p>逆に7割以上の市民が多様性の保全を重要でないと思っていると読み取って良いか？ 第3次環境基本計画の大きな視点でもあるSDGs目標とも関連する項目だけに、違和感の残る数字なので、せめて文章を「関心を高める」から「意識を高める」のような表現に改められないか。</p>	<p>当該指標に関する回答の内訳が、 「知っており、重要な問題だと思う」 26.5% 「知っているが、重要な問題だと思わない」 3.2% 「あまりよく知らない」 46.0% 「知らない」 22.5% 「無回答」 1.8%</p> <p>となっていることから、生物多様性について「そもそも知らない」市民が多いのが現状です。そのため、まずは生物多様性について知ってもらう、関心を持ってもらうことが重要であることから、「関心を高める」という表現としています。</p>
5	1 修正	<p>【分野別目標】1 エネルギー</p>	<p>再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会への転換ですが、本文含め低炭素の表現 より脱炭素の表現が妥当と思います。</p>	<p>本計画は「吹田市第4次総合計画」に基づいた計画です。本計画の上位計画である「吹田市第4次総合計画」において「低炭素」と表現していることから、本計画についても同じ表現としています。</p> <p>「吹田市第4次総合計画」より踏み込んだ表現は難しいため、現状ではこの表現とさせていただきますが、本計画は「吹田市第4次総合計画」に合わせて計画期間を9年としており、次回は本審議会の意見を総合計画に反映させるべく設定しています。次回の改訂時などに、「脱炭素」を含め、その表現について検討します。</p>
6	4 その他	<p>【分野別目標】1 エネルギー</p>	<p>資料2の分野目標の(2)課題の省エネルギーへの、公共施設でのノウハウを市民に情報提供するということは、具体的にどういった取り組みが想定されるのか教えてください。また、この部分の取り組み状況等について、P8の達成指標や活動指標の見解に記載がない理由があれば教えてください。</p>	<p>取組の例としては、本市公共施設に導入している再生可能エネルギー設備の発電実績及び余剰売電実績の本市HPに公表があります。実績を公表し、市民へのPRIにつなげています。資料3のP8については、主に各指標の現状値に関する見解を記載するものです。御指摘のような今後の課題に関する内容については、審議会で評価をいただくべき内容であることから、審議会評価（案）に記載しています。</p>

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
7	4 その他	【分野別目標】1 エネルギー	市民における省エネルギーの取組みについては、家庭部門が重要であることは認識されていますが、評価指標等の見解や課題からもう少しその重要性がわかる記載が欲しいところですが、このような記載になっている理由を教えてください。	資料3のP8については、主に各指標の現状値及び見解を記載し、自己評価としてまとめたものです。市による自己評価の内容を踏まえ、審議会評価（案）を作成しています。御指摘のような今後の課題に関する内容については、審議会で評価をいただくべき内容であることから、審議会評価（案）に記載しています。
8	1 修正	【分野別目標】4 みどり・自然共生	生物多様性、保全生態学の専門家（五箇公一氏（国立環境研究所所属）等）からは、コロナウイルスの感染症拡大の背景には、「行き過ぎたグローバル化」を指摘されており、「その見直しと地域ごとに持続可能なライフスタイルへと転換が必要」と述べられています。吹田市においては、「生物多様性の保全」として掲げている指標も減少していることも課題としてあげている現状から、吹田市域のローカルでできる、地域循環型の消費システム（広義的な意味をもつ地産地消地（あらゆる資源やエネルギーを地域レベルで循環して、自立した地域経済社会を確立することを意味。農林水産業という一次産業を基軸として、地域密着型の商工業システム、地域循環型の自然再生エネルギーシステムを確立して、地方で安心して、豊かな生活を遅れる社会）等）への転換のための官民協働を進めていくことは非常に大切だと思います。そういった観点を追記できないか。	生物多様性分野については、指標の現状を踏まえ、まずは生物多様性に対する関心を高めていくことが重要であるという観点から現案のままとさせていただきます。御指摘の様な地域循環型の観点も盛り込まれた取組として地域循環共生圏の構築に向けた取組があります。本市では能勢町等と連携し、木材利用や「里山DAYCAMP in NOSE」といった、生物多様性への関心向上にもつながる取組を進めています。
9	1 修正	【分野別目標】4 みどり・自然共生	「生物多様性への関心を高める。」という視点も、アンケートによるその文言を知っていただくことが目的ではなく、意識を持ったライフスタイルへの転換や保全活動への投資が大切であるため、そういった、啓発になれるように、もう少し踏み込んだ施策展開が必要ではないか。と考えます。例えば、先日、NPO団体が作成をされた「レッドリストすいた2021」の知見を活用して、吹田市においてもこういったものを作成して、広く市民に具体的に知っていただくような活動への発展が必要だと考える。評価の部分の文書（資料2、P1・3）においても、「啓発活動やイベント等の実施」という減少していない時期と同じような取組みの文言ではなく、もう少し踏み込んだ文言に変えられないか。（特に資料7で、具体性ある取り組みを考えておられるなら、課題のところもう少し踏み込んでいいと思います）	生物多様性に関するより具体的な施策については、御指摘のNPO団体作成の「レッドリストすいた2021」も参考にしつつ、現在実施中の「自然環境調査及び生物多様性保全施策検討支援業務」の中で検討してまいります。

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
10	4 その他	【分野別目標】4 みどり・自然共生	<p>また、現在、公園の再整備事業が盛んとなっており、例えば、市の示す桃山公園の目指す姿には、森林伐採が前提のプランが立てられている。また大阪府の所有の吹田市域内の土地の開発等もあり、現在においても緑被率を上げる必要があるのに、緑被率の縛り等がない状態あり、ますます、緑被率の減少は懸念されます。資料2、P3の緑の（1）イの現状の意味をもう少し教えていただきたいのと、どちらかという、緑を増やす政策へのシフト転換も必要ではないか。（50年かけて整備していききた公園等のように）と考えますが、（2）課題のイ、の記載はとても抽象的ですが、具体的なことは何か考えておられるのでしょうか。あと、基本的な確認ですが、資料3のP12は、公園の面積というのは、公園のなかに、緑のない分（ex.千里南公園のカフェの面積等）も含まれているという理解で良いでしょうか。</p>	<p>「P3の緑の（1）イ」の意味については次のとおりです。 「みどりの協定」に基づく取組などを行う団体数は増加しています。街区公園2や遊園3の開設により、「公園などの面積」が増加しています。一方で、「市民1人当たりに対する都市公園面積」については、都市公園面積が増加したものの、人口も増加したことから、市民1人当たりの面積としては変動がありませんでした。 「吹田市第2次みどりの基本計画 改訂版」に基づく質及び量を共に重視した緑化などの取組の一例としては「地域に応じた創意工夫により、みどりを生み出す」があります。その具体的な内容は、「商業地・業務地のような密集した市街地や住宅地など、それぞれの地域の特性を踏まえ、立体的な緑化、敷地内のオープンスペースの活用、道路残地の活用、住宅地における生垣緑化など、スペースの有効活用やみどりを多く体感できるような創意工夫などにより、地域に応じたみどりを生み出す。」ものです。 資料3のP12の「公園の面積」については、御指摘の緑のない分についても含んだものです。</p>

【環境審議会評価（案）以外への意見一覧】

No.	意見	修正（案）、考え方など
1	RE100の取組をされていますが、吹田市全体の公共施設すべてで、RE100を何時迄に達成される計画か？教えてください。	地球温暖化対策地方公共団体実行計画（事務事業編）である「SUITA MOTTANOCITY ACTION PLAN (SMAP)」では、2030年度までに市の事務事業において、再生可能エネルギーの活用100%を目指しています。
2	EE電への切替を推奨されていますが、再生エネの率は、30%です。40%・50%への計画を教えてください。	EE電では、電源構成における再生可能エネルギー比率が30%以上の小売電気事業者への切り替えを促してきました。現在、多くの小売電気事業者が非化石証書等を利用した再エネプランを用意するようになっていることから、EE電においても、さらなる再生可能エネルギー導入拡大を検討していきます。
3	日本の目標値を考えても、3.11以降、原発20%は考えられないと思います。再生エネでどうして進めるかと思います。吹田市では太陽光が主となると思いますが、夜の電気をどう確保する計画か？教えてください。〔水素（グリーン水素orブルー水素）・蓄電池・揚水発電等〕	全域が市街化区域である本市においては、太陽光発電を主体とした再生可能エネルギーの導入が重要であると認識しておりますが、夜間の電力の確保について、国や大阪府の動向を注視しながら、近隣市町村とも連携を図り、検討してまいります。 また、現在大阪府と連携し、市民及び事業者向けに「太陽光発電及び蓄電池システムの共同購入支援事業」を実施しており、夜間電力の確保にもつながる蓄電池の普及に向けた取組を進めています。

【環境審議会評価（案）以外への意見一覧】

No.	意見	修正（案）、考え方など
4	<p>3に関連して、去年の11月に出来た建都ライブラリーで太陽光発電が30kw稼働しています。これを例に、かかった費用・発電量等から採算を計算し公表してPR出来ればと思います。ご検討願います。（コストが変わらず、脱炭素に寄与出来ればと考える市民へのPR）</p>	<p>本市公共施設に導入にしている再生可能エネルギー設備の発電実績及び余剰売電実績を本市HPに公表し、市民へのPRに活用しています。 https://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-kankyo/kankyoseisaku/energy/_94457.html ただし、公共施設のような大型建築物と住宅とでは設備の規模や設置条件等が異なることから、公共施設での採算性をそのまま参考にするには難しいものと考えられます。</p>
5	<p>○進捗評価をする上で、毎年のごとではあるが、エネルギー分野の排出量や消費量の集計は2年遅れのため、平成30年度の結果で評価することに対して異論はないが、注釈で集計が2年遅れになる旨記載したほうが、市民目線的には、親切ではないかと思う。</p> <p>またこの分野別目標の項目については「新型コロナウイルス感染症拡大の影響により」の文言はないが、令和2年度も省エネルギー機器や再生可能エネルギー導入の進捗遅延は発生しなかったと考えてよいでしょうか。</p>	<p>エネルギー消費量及び温室効果ガス排出量については、以下の注釈を加えます。</p> <p>※エネルギー消費量及び温室効果ガス排出量の算出は統計データ集約の関係により2年遅れとなる。</p> <p>令和2年度についても、公共施設への省エネルギー機器や再生可能エネルギー設備の導入が一定進んでいることから、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は無いものと考えられます。</p>
6	<p>○公害に関する苦情を解決した割合56.2%から73.6%と大きく改善されておりますが、件数ではどれくらいなのでしょう。参考までに知りたいです。（苦情の原因となる短期工事の増減により苦情件数は年度により変動差があるため、解決割合で評価していると理解しておりますが、苦情件数や内容のような資料は公開されているのでしょうか？）</p>	<p>当該指標については、（①当年度の処理件数）／（②当年度の受付件数＋過年度からの繰越件数）により算定しています。それぞれの件数は以下のとおりです</p> <p>R元年度：①95件、②169件 R2年度：①145件、②197件</p> <p>合計件数及び分野別件数（大気汚染、水質汚濁等）については、本市環境白書の資料編の「公害苦情受付件数」として公表しています。 https://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-kankyo/kankyoseisaku/env-plan/env-report/_107068.html なお、苦情の具体的内容については公開していません。</p>

【環境審議会評価（案）以外への意見一覧】

No.	意見	修正（案）、考え方など
7	<p>「気候非常事態宣言」についてですが、これは、資料3の近年の環境情勢には載せていただけていますが、この基本計画の進捗の評価（P8など）には、記載がないですが、それは、関連がないという理解で良いのでしょうか。</p>	<p>気候非常事態宣言は、2050年に向けて長期的視野に立ったものです。本宣言はエネルギー分野の取組にも関連はありますが、資料3のP8については、主に各指標の現状値に関する見解を記載するものであり、より短期的な評価であることから、記載していません。</p>
8	<p>資料3のP8の（ア）達成指標の、エネルギー消費量の横ばいの評価の根拠として、「暑夏」の気候の状態をあげておられますが、これのデータ等の根拠はありますか？また、EE電力の取組みなど市民の電力切り替え等には触れておられませんが、ここの指標達成に、効果はなかったのでしょうか。</p>	<p>気象庁HPの「日本の季節の天候」によると、平成30年（2018年）の夏の天候として「西日本で記録的な高温」となったことから、「暑夏」と記載しています。 (https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/longfcst/seasonal/seasonal_201808.html) EE電では、再生可能エネルギー比率の向上に向けた効果はあります。一方で、電力会社の切替自体は電力消費量の削減にはつながらないことから、エネルギー消費量削減に向けた効果はないものと考えられます。</p>